



子どもの心に寄り添って



状態・状況に合わせた支援を


不登校とは学校に行きたくても行けない状況です。その時その時の状態・状況に合わせた支援が必要になります。どの状態・状況でも大事なことは、心がつながることです。

こんな時どうする？

①  パル先生
Aさん、しばらく学校に来てないし、家庭訪問でも会ってくれない。

②  無理にでも引きずり出してみた方がいいのかな……。
このままでは、Aさんがひきこもってしまうのではないかと心配なパル先生

③  ちょっと待って！その支援、今の子どもの状態に合った支援？
「不登校児童生徒への支援チェック表」で今一度確認してみては？
不登校児童生徒への支援チェック表 

④  学校に来ていない日が長くても、発達援助的な支援過程でみると、本人に会えないし、不安も緊張も強いようだから、初期過程ってことか。
まずは、Aさんと保護者を追い詰めないように、信頼関係づくりに努めよう。焦らず、Aさんの主体回復を待つ支援をしていこう！
Aさんの好きなものの絵を描いた手紙を出してみようかな。
保護者と雑談ができるようになるといいな。
Aさんにとって、敵ではなく味方だということが伝わるようにしたいと思ったパル先生

裏に「不登校児童生徒への支援チェック表」があります。

不登校児童生徒への支援チェック表

学年 組 名前 ()

目的 不登校は学校を回避している状態ですが、学校から離れていく過程で自分づくりや主体性の回復など、個の成長につながる大きな可能性を有しています。支援においては、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があります。このチェック表は、チームで協力しながら、子どもの成長やその結果としての学校復帰を支援することを目的に記入します。

チェック表の活用方法 ① まず、子どもの状態像にシ点ををつける ② レ点の多い項目が現在の支援過程である可能性が高い ③ その過程の具体的な（子どもの状態に適した）支援プランにシ点ををつける ④ 留意点を読み、現在のかかわり方に留意する ⑤ チェック表を参考にし、個別の支援計画を作成する

発達援助的な支援過程	子どもの状態像チェック	具体的な支援プランチェック	留意点
1 初期過程 (見守る)	<input type="checkbox"/> 身体症状がある、不安・緊張感が高い <input type="checkbox"/> 登校刺激に対し、過敏に反応する <input type="checkbox"/> 昼夜逆転の傾向がある <input type="checkbox"/> 本人に会えない <input type="checkbox"/> 外に出ることが少ない <input type="checkbox"/> 趣味（ゲーム等）に依存している	<input type="checkbox"/> はじめは、家庭訪問等をして様子を見る <input type="checkbox"/> 家庭訪問等では、信頼関係づくりを目的に、プリント類を届け、担任からのメッセージを渡す等のかかわりをする <input type="checkbox"/> 家庭訪問では、学校の話は避ける <input type="checkbox"/> 状態が悪ければ、保護者と同意の上、一時的に刺激を控える <input type="checkbox"/> 見捨てられ感がないように、保護者との連絡、保護者面談を続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に行かないことで、子どもや保護者に罪悪感を与えない ・ 悪者さがしをしない、保護者と対立関係にならない ・ 信頼関係づくりに努める ・ 情報をオープンにする ・ 登校に向けての誘いかけの言葉が、子どもや保護者を追い詰めないよう、十分配慮する ・ エネルギ―回復の時期なので、すぐに登校につながるのではなく、ふれあいのある人間関係づくりを進める ・ 登校していても、担任等と気持ちがあがっていないことが、子どもの成長を支える ・ 短い時間でよいので、つながる機会を増やす ・ 登校だけを急ぐと信頼関係を損なうことがある ・ 「あなたに学校に来てほしい」という気持ちがあがわるようにする ・ 一方的なかかわりにならないように注意する ・ 学校中での居場所づくりを図る ・ 子どもの努力だけでなく、様々な支援がないと登校の定着は難しい ・ 他の子どもへの説明や理解を図る ・ 状態像が初期・中期・後期過程に戻ったように見えることがあるが、一時的なことが多い ・ できることを一つずつ認め、自信をつけさせる ・ どの時間・場面で不安・緊張感が高くなるのか理解し、具体的な軽減を図る
2 中期過程 (つながる)	<input type="checkbox"/> 心身が安定してくる <input type="checkbox"/> 活動したいという意欲が見られる <input type="checkbox"/> 表現的な活動が見られる <input type="checkbox"/> わがままや自己主張が見られる <input type="checkbox"/> 本人に会える <input type="checkbox"/> 外に出ることがある	<input type="checkbox"/> 家庭訪問等では、つながることを目的にかかわり方を工夫する <input type="checkbox"/> 子どもの興味・関心のあることを一緒にする <input type="checkbox"/> 子どもと一緒に勉強する <input type="checkbox"/> 抵抗のない範囲で、学校の話をする <input type="checkbox"/> 子どもと一緒に公園等に外出する <input type="checkbox"/> 率直に再登校を呼びかける（提案として） <input type="checkbox"/> 再登校のための具体的なプランを本人・保護者の理解、協力を得て作成する <input type="checkbox"/> 子どもの状態に応じて、徐々に慣れていけるよう、居場所づくり等、柔軟な校内体制（合理的配慮に基づく）をつくる <input type="checkbox"/> 別室登校、放課後登校、行事や好きな教科への参加等を試みる	
3 後期過程 (迎える)	<input type="checkbox"/> 意志が明確である <input type="checkbox"/> 思いやり、柔軟性が感じられる <input type="checkbox"/> 将来の展望や希望がある <input type="checkbox"/> 他とつながろうとする <input type="checkbox"/> 学習に対する意欲が見られる <input type="checkbox"/> 外に出ることができ	<input type="checkbox"/> 本人と時間割表をもとに、登校時の支援の方法を話し合う <input type="checkbox"/> 対応について、教職員で共通理解を図る <input type="checkbox"/> 友だち関係を把握し、学校内の居場所をつくる <input type="checkbox"/> 学級担任以外の先生との関係もつくる（声かけ等） <input type="checkbox"/> 遅れている学習に対応できるよう、加力指導や教室での対応を工夫する <input type="checkbox"/> 子どもから登校時の気持ちや様子を聞く	
4 復帰過程 (かかわり・学ぶ喜びへ)	<input type="checkbox"/> 学校に居場所がある <input type="checkbox"/> 再登校をはじめめる <input type="checkbox"/> 別室・部分登校している <input type="checkbox"/> 友だちとのかかわりが見られる <input type="checkbox"/> 教科により、授業に参加している <input type="checkbox"/> 登校時の気持ちを話すことができる		